

6 新名庄川の河川改修事業 長期的な本格的整備も検討を

白 壁 忍野村に関しては、懸案事業でもある忍草地区の桂川、新名庄川の冠水対策としての河川改修事業が進んでいます。

この地区の河川は川底に泥土がたまりやすく、道路より河川の方が高くなってしまい継続的な浚渫作業が必要だと思いましたが、私としては将来的には一市二村道路の完成後にはこの道路下（鳥居地トンネル）水路を掘って桂川に流すといったような本格的河川改修が必要と考えます。

完璧な改修には様々な課題があると思いますが災害対策の面での県の努力を願っています。



新名庄川浚渫



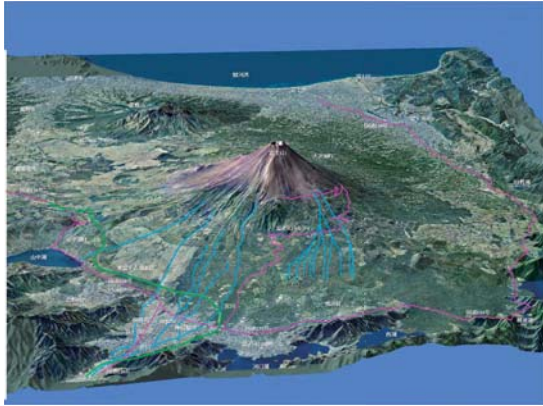
鳥居地トンネル

県土整備部長 忍草地区の冠水対策事業は平成26年に着手し浚渫工事については、おおむね順調に進んでおり、本年度中に完了する予定です。改修事業は防衛省予算も含めて実施していますが、将来的には白壁議員の提案も含め検討課題としてまいります。

7 富士山の防災対策 各種工事の進捗状況は

白 壁 昨年8月には山頂付近で落石事故があり1人が死亡したうえ山頂への登山道も閉鎖の事態となるなど、発生直後には混乱が発生しました。40年前の死者12人重軽傷者26人という落石事故以来、落石対策の必要性は認識されていますが、現在は噴火による溶岩流、雪溶け泥流に加え富士山噴火による溶岩流対策を含め、国土強靱化の重要項目の一つとして防災工事が行われています。

私の知るところでは、北海道・珠山の噴火泥流の速度は時速50キロ、富士山の場合はその急斜面から、頂上の噴火でも麓までは15分で到達すると聞いています。溶岩流対策は地域の方々の生命を守るためにはまさに喫緊の対策です。今年は、新型コロナウイルスという100年に一度の災厄より、異例ともいえる富士登山全面禁止という事態に在ります。そうした状況の中で、どのような状態にあるのでしょうか。



県土整備部長 富士山全域の火山防災事業は、国の砂防事業事務所がある静岡県側で実施されていましたが、平成31年4月に山梨県側に出入が設置され、国、山梨・静岡県両県の担当部署も加わって防災対策に取り組んでいます。山梨県側には恩賜県有林をはじめ、恩賜林組合の管理地北富士演習用地もあり、それぞれの区域の

実情を踏まえた意見調整に当たっています。

火山噴火緊急減災対策は、国直轄事業として行っており、昨年度は緊急時に利用するブロックの製作や既存の砂防堰堤の除石等の機能向上を実施しています。本年度は、昨年度と同様に既存砂防堰堤の除石工事を行うと共に、遊砂地工群の測量設計等を予定しています。



富士山導流堤写真

白 壁 富士山の防災対策としては、麓から山頂にかけての電源供給の整備という課題もあります。山頂には静岡からの電源があり、山梨県側は山頂直下は山頂からの配電を受け、それから下の山小屋は発電機に頼っています。富士山の安全強化という面では、トイレの電源も含めてそろそろ本格的な電源整備が必要ではないでしょうか。イコモス（文化遺産に係わる国際記念物遺跡会議）も電源については触れてはいないようです。電源については観光部との関連もありますが、登山道を所管する県土整備部としては、地熱発電活用というわけにはいきませんか。

県土整備部長 現在、県では、富士スバルラインを管理するため新たな電力供給の可能性について検討していますが、富士山の厳しい気象条件や法的な制約に加え、技術的難易度など多くの課題が想定されます。

しています。

加えて、山中湖から道志へ抜ける東京五輪自転車ロードレースのコースの整備も予定通り進められました。五輪開催は1年後に延期されましたが是非、選手たちの力走を観戦したいものです。

県土整備部長 トンネルを含む国道413号の「道志バイパス」整備事業は昨年度から工事に着手し、現在は月夜野地区ののり面工事、大渡地区の残土処理場整備工事などを行っており、今後も計画的に事業を進めています。

白 壁 最後に、道志村地区では昨年の台風19号被害の災害復旧事業が進んでいます。進捗状況についてお聞きしたい。

県土整備部長 道志川の河川災害については、漁協などとの調整が済み、本年秋以降に工事に着手していきます。



道志川浚渫

8 国道413号「道志トンネル」 予定通りの工事進捗に期待

白 壁 道志村村内を通過して相模原方面に向かう国道413号の改修は、現在、仮称「道志トンネル」の工事が始まっています。この事業については私も13年前から道志村の将来展望を踏まえて意見をめぐらしてきたこともあり、大いに関心のある計画でした。様々な経過をたどりましたが、県や村内の前向きな姿勢もあって平成25年ようやく事業化が決まり、昨年度から着工となりました。

事業化から約6年で用地買収を完了するなど着工へ向けて順調に進んできました。事業終了後にはリニア新幹線の橋本駅まで一挙に時間が短縮されます。完成までは今しばらくかかると思われますが、総事業費は50億を超える大事業の完成を楽しみに



国道413号（道志バイパス写真）



道志トンネル残土処理場工事

対談を終えて 白壁 賢一

当日の対談では、県の土木事業全般を担当する大儀県土整備部長に富士北麓の懸案事項等について直接、私の意見を提示して事業進行の現況について説明を受けるとともに、地元からの要望を伝えました。

懸案事項、要望事項は多岐にわたったため、この報告では全てを紹介できませんでしたが、大儀部長からは、いずれの事業も完成を目指して事業推進中との説明がありましたが、私からは、さらなる県の努力を要望しました。

明日の山梨を元気に！
もっともっと
SHIRAKABE



山梨県議会議員
白壁賢一
活動レポート
【発行元】白壁賢一

Vol.45
2020/9

「アフター・コロナ」を見据えて 富士北麓地域のインフラ整備をチェック

山梨県内でも4,000人超の死者を出したという大正時代のスペイン風邪以来、100年ぶりのパンデミックに至った本年の新型コロナウイルスの災禍は、県下では8月末現在で死者2人に収まっているとはいえ、観光事業を主力とする富士北麓地域への影響は計り知れない状況にあります。第2波、3波への不安が続く中、現在はコロナ禍終息後の地域再生を検討する時に入っています。

今回の県政報告はその意味を踏まえ、アフター・コロナを見据えた富士北麓地区のインフラの強化に

ついて、本地域の基盤整備の基本となる土木関係を主管する山梨県県土整備部の大儀健一郎長と、現在進行中の北麓で課題となっている道路、環境、富士山噴火対策などの土木事業等に関する対談を行い、各事業の進捗状況を伺うとともに地域からの要望をお伝えしました。以下、その内容をご報告いたします。

山梨県議会議員

白壁 賢一



お気軽にご意見を
お聞かせください。

「白壁賢一」で検索してください！

白壁賢一

検索

山梨県議会議員

白壁賢一 【しらかべ けんいち】

1960年生まれ。93年に33歳で旧河口湖町議に初当選、3期務める。2003年に富士河口湖町議に当選し2期。この間、議長などを歴任。07年に山梨県議会議員に初当選。2017年に第126代山梨県議会議員。現在4期目。

TEL 0555-73-3737 FAX 0555-73-3757

〒401-0301 山梨県南都留郡富士河口湖町船津1505

白壁賢一 公式サイト：http://www.shirakabekenichi.jp/

白壁賢一 E-Mail：Shirakabe@kawaguchiko.ne.jp

山梨県県土整備部 部長 大儀 健一 × 山梨県議会議員 白壁 賢一

道路整備、富士山噴火対策など 県土の強靱化、地域の安全対策は急務

白 壁 ご多忙の中、この度は貴重な時間を割いていただき、ありがとうございます。

私は、山梨県民の生活の向上を願うという県議会議員の立場から、これまでも県政各部署トップの方々とは、本県の現状とその将来について話し合いをさせていただいてきました。本日は、特に私の暮らしている富士北麓地域の現状と課題、将来への展望などについて、土木行政担当責任者の大儀部長から道路整備、富士山噴火への防災事業などについて、県の施策と現状、それらにおける意見をお聞きできたら幸いです。

県土整備部長 私は、山梨県に赴任して1年数ヶ月と日が浅いのですが、その間に土木関係事業に関しての本県の実情と課題について、一生懸命勉強させていただいてきました。山梨県の地理的な特徴、過去における災害など基本的な知識から、現在進行中の諸事業など、現地を一巡しておおむね理解できました。山梨で生まれ育った人間ではありませんが、逆に外部の客観的な視点から本県の今後のあるべき姿が見えるのではないかと考えております。

白 壁 この対談で、私も大儀部長と一緒に、改めて勉強し直していければと期待しています。私の育ってきた富士北麓地域は、日本を代表する富士山を核に全国から注目される立場にあります。

近年は世界文化遺産への登録、富士山噴火への防災対策など、山梨県としての各種対策には、その一つひとつが全国から注目されています。その中で、地域の大きな部分が国立公園内に含まれる当地域は、道路整備などの土木事業では細かい規制がかかっている中で、富士山噴火など、急速かつ大胆な施策が求められています。地域としては県の所轄部署のバックアップを期待しています。

県土整備部長 例えば、日々の生活に欠かすことのできない道路は、国道、県道、市町村道、さらには私有の道など様々な形態が連携して活用されています。そうした状況の中で、県と国、県と市町村、さらには国と市町村という関係になって、最良の事業を探る責任があるというのを基本としています。様々な規制がある富士北麓地域についても、その基本姿勢の下で、地域の期待に応えていかなければならないと考えています。

1 国道139号・県道71号 バイパス整備で避難路の整備を

白 壁 まずお聞きしたいのは、国道139号に関連した道路整備についてです。139号は、1100年余前の貞観噴火で富士山北側から流出した溶岩流で形成された青木ヶ原樹海の上を走る道路です。それ以前には、日本武尊の駿河に向けての東征路の道筋で、現在も静岡県側の富士宮方面へ向けての主要路線です。この139号と並行して富士宮方面に走っているのが県道71号（富士宮鳴沢線）です。ところが今も地域の要望が強い国道・県道を連結するバイパスは未整備のままです。

この地域の静岡県側には幹線道路以外にも4本も5本も道路がありますが、山梨県側は2本の道路の連結さえ出来ていません。

現在、両県をまたぐ富士山麓は、富士山噴火の避難対策としての道路整備が検討されていますが、このバイパス整備は北麓西部の住民の安全避難には欠かせない課題ではないでしょうか。

県土整備部長 これまで富士北麓の土木事業が遅れている理由は、自然公園法や自然保護法、さらには文化財保護法による厳しい規制が足かせとなっています。国立公園にすっぽり収まっているこの富士北麓地域は、道路、砂防、河川など土木整備について神経を使わざるを得ません。

富士山噴火という災害リスクもある中、富士山登山道の安全対策や、噴火時の避難路整備は重要であり、県としては、それらの法律のバランスを解釈しながら地域の要望に応えるべく検討していきたいと考えています。

白 壁 国立公園内なので整備不可という事例は多々あるでしょうが、一方では住民の方々の不安と安全を考えていかなければという観点も不可欠です。静岡県側と比べて圧倒的に避難に活用できる脇道の少ないこの地域で、あえて道といえるものに「精進登山道」があります。砂利道でもかまわないですから、せめて車が通れる林道とか作業道として整備できればと考えています。

富士北麓の主産業は観光ですが、現在の規制では眺望を良くしようと、木を1本切るのもダメ。この木1本切れば富士山がよく見えるようになるといっても「それでもダメ」という状況の中で、最近は、ビジットジャパン構想など観光振興の観点から、厳しい規制に対する考え方が微妙に変わりつつあります。これからチャンスがやって来るかもしれません。

県土整備部長 観光ニーズと自然保護との両立は困難を伴いますが、この路線は避難路としての性格もあることから、他地域の工夫事例などを参考にしながら、この地域についても両立が図れるよう事業を進めていくことが重要だと考えています。

白 壁 139号関連では、鳴沢村地内の交通渋滞の緩和も課題です。原因としては青木ヶ原樹海のカ文化財保護法による規制や村内の短区間に過度な信号機が設置されていることなどが原因とされています。

従来、渋滞は観光面での障害ということでしたが、近年は富士山噴火発生時の避難道路整備という課題も加わっています。大田和交差点以西のバイパス延伸も含め県の主導的な解決への努力を期待しています。

出身地 東京都
昭和46年10月26日生
早稲田大学大学院理工学部研究科建設工学専攻 平成8年3月 修了

■略歴

平成8年4月………建設省 入省
平成28年4月………道路局 環境安全課地域道路調整官
平成29年4月………関東地方整備局 大宮国道事務所長
令和2年4月………山梨県 県土整備部長

おおぎ けんいち
大儀 健一
Profile

Kenichi Oodi

2 関西、中京地域の窓口 国道300号の整備進捗状況について

白 壁 富士北麓の観光推進と道路網の整備といえば、現在進行中の国道300号の整備は、北麓地域の関係者にとっていつまでに完成するのが気になることです。ご存知の通り、難工事が続いていた新東名自動車道と中央自動車道双葉ICを結ぶ中部横断自動車道が来年夏頃に開通します。

その中部横断自動車道と富士北麓地域を繋ぐのが国道300号です。国道300号は富士北麓と関西、中京地域を結ぶ新たな幹線道路として大きな期待がかけられていますが、富士北麓側の関係者にとっては、いつになったら工事完了になるのか大いに気になることです。人によっては「工事は止まっているのでは」と疑問を口にしている状況です。

県土整備部長 ご懸念はあるでしょうが工事は逐次進行中です。現在は第1期分の後半に入っていますが、工事着手当初は、比較的傾斜の緩やかな区間で、着々と進捗していましたが、急傾斜とつづら折れの後半部に入ってから、技術的にも難工事となっております。しかし300号の整備については県内ネットワーク整備の主要事業として力を入れております。

3 河口湖の周回道路整備で 新たな観光資産の創造願う

白 壁 湖畔周回道路に関しては、現在、河口湖畔の周回道路の整備事業が進行中です。河口湖は本栖湖とは違って、車での湖畔周回は常時可能ですが、北岸の大石地区から、船津方向へ向かう、若彦路入口、扇崎、桑崎区間にかけての狭隘区間の整備事業の完成を待ち遠しく思っています。

私の記憶では、この事業は20年前の、横内正明知事の英断で着手されて以来、



長崎～河口小拡幅工事



扇崎拡幅工事

継続されていますが、既に整備が終わった箇所は、両側に歩道設置に加え電線地中化も実現されているなど、各種の規制のなか、完璧に近い整備が実現しつ

4 河口湖畔の環境整備 周回路改善事業、どこまで進捗

白 壁 富士五湖に関する懸案事項は、道路整備以外にもまだまだ多数残されています。河口湖では湖の景観形成事業として、水辺の環境改善を「水辺づくり」として協議しています。これまでの2回の協議では環境保護を重視する委員からは、現



河口湖環境整備（レイクランド前葦狩り）



河口湖環境整備（馬場川除草）

5 旧態然の山中湖の管理改善と 「一市二村道路」の整備促進を

白 壁 湖の管理に関しては、昔も今も山中湖の違法状態の改善が望まれています。問題は河口湖の景観形成事業論争とは異次元の深刻な問題です。違法棧橋、浜辺の違法占有、加えてジェットスキー等の暴走などで、ボートや浮き輪の親子などが危険にさらされる状態が改善できないまま放置状態が続いている。

湖面の管理は県の管轄ですが、何とか改善してほしいというのが一般利用者の気持ちです。ちなみに河口湖などは、警察の指導でルールを決めて管理されているのですが。

県土整備部長 内水面の利用は個々人に委ねられていますが、安全管理は地元の自主的な統括が原則です。浜辺の占有など明らかな違法行為については対応が必要ですが、あくまでも地元の意思統一が理想です。ご指摘の点については県としても対応していかなければならないと思います。平成26年からは、治水課でも協議会（明日の山中湖創造協議会）を設立し、ルールづくりを目指し取り組んでいます。

一市二村連絡道路

白 壁 国道300号の整備に関連して言及したいのは、南巨摩郡の富士川東岸から国道300号を上って最初に眼前に広がってくる本栖湖畔の道路整備です。すでに長年の懸案ともいえますが将来300号の整備完了を受けて実現できないものかと願っています。ご存知のように本栖湖は富士五湖の西端にある水深133メートルを誇り、五湖の中でも神秘的の湖とも言われる山間の湖です。

一方では、他の四湖に比べて湖畔の整備が遅れていて、車での湖畔周回が困難な唯一の湖になっています。現在の国道300号が開通しても湖畔に着くと、間もなくゲートが設置されていて少量の降雨でもしばしばゲートは閉められます。湖畔周回は完璧には不可能ではありませんが、快適なドライブは望めません。一時期は、笹川財団のモーターボート研修場や日本体育協会直轄の本栖湖青少年スポーツセンターなど全国規模の施設がありましたが、湖畔道路の不備もあって観光投資する企業もないのが実情です。「開発の遅れが、本栖湖の人気」という意見もありますが、私としては県の支援で是非とも整備事業への着手を希望しています。

県土整備部長 現在の整備状況や湖畔道路の利用状況を確認し、課題を把握したいと思います。

つあります。湖の北岸は、旧来の観光拠点の南岸とは違って、湖面超しに望む富士の霊峰は格別の地域です。

残された区間の整備が完了すれば、大型バスのすれ違いも可能になる計画ですが、気になるのは工事の進捗状況と今後の計画日程です。

各区間の進捗状況と今後の日程を教えてください。



県土整備部長 現在、大石地区の長崎、桑崎、扇崎の3箇所を事業が必要な箇所としており、このうち大石地区の長崎トンネルから大石小学校付近においては、残る区間の工事を進め、数年以内の完成を考えております。

桑崎につきましては、一昨年、公共事業評価に諮り、現在、測量や設計など事業化に向けて準備中です

扇崎につきましては、湖岸側に道路を拡げる工事を進めており、令和5年までに完成の予定です。

状に手をつけず自然のままにという意見が強いのですが、豪雨、濁水、増水により湖面の上下する事態が起きています。

船津地区の岸辺はかつて新御坂トンネル掘削の際の廃土を詰め込んだカゴで岸辺を整備した箇所がありますが、濁水の度に剥き出しになったり、上下水の排出で異臭を放つこともあり、周辺の旅館、ホテルは大変です。これらの部分の改良に関しても、自然保護法などを根拠に反対意見が出され、結論が出せないままです。近く3回目の協議開催も予定されていますが、河川敷、湖岸の整備を担当する県土整備部としてはどのような指導を考えているのでしょうか。

県土整備部長 10年ほど前に、国が「かわまちづくり」事業を創設しました。これは、川辺や湖畔を活用し地域の創意による活性化策を国が支援するものです。今回設立した協議会において、関係者がそれぞれの意見を出し合い国立公園の中にある河口湖の環境に配慮した活用策について議論を進めていきます。

白 壁 山中湖周辺整備に関連しての懸案というと、事業が中断したままの通称「一市二村道路」があります。この道路は忍野村に駐屯基地がある自衛隊（防衛省）の予算で富士吉田、忍野、山中湖の一市二村を結ぶ県道としての事業ですが、富士吉田・忍野間の開通以後は山中湖までの工事が止まったままです。

この間の路線決定をめぐって地元の意見調整がまとまらず、このままでは計画立ち消えの恐れさがあります。現在の状況はどのようになっているのでしょうか。

県土整備部長 ルート案については、忍野村、山中湖村など地元意見の集約を図っていると伺っているところです。今後も地元の合意へ向けての対応を継続してまいります。

Kenichi Shirakabe